

Game Report

開催場所：日本経済大学 都築貞枝記念体育館

試合区分：第 23 回全九州大学バスケットボールリーグ戦 男子 1 部

試合期日：2016 年 9 月 4 日 (日)

試合時間：17:20～

主審：甲木 善徳

副審：古後 宏和

東海大学九州	1 0 3 ○	24	—1st—	13	7 9 ●	九州共立大学
		30	—2nd—	16		
		24	—3rd—	14		
		25	—4th—	36		

第 1 ピリオド

開始直後、東海大は #2 長野、#6 小澤の 3 P シュートで得点を重ねていく。インサイド、アウトサイド共にバランスの取れた攻撃で流れを掴む。一方、九共大は #9 小田のスピードあるドライブ、#22 河井の力強いオフェンスリバウンドで東海大に喰らいついていく。しかし東海大 #21 谷里が 3 P シュートを 2 本続けて決め、九共大を引き離していく。24-13 で東海大が 11 点リードで第 1 ピリオドを終える。

第 2 ピリオド

#10 片峯のミドルシュートが決まり九共大が先に得点する。流れを引き寄せたい九共大は 3-2 のゾーンディフェンスを仕掛け、東海大のリズムを崩そうとする。しかし、東海大は速い攻撃から確率の高い 3 P に加え、オフェンスリバウンドからの合わせのシュートも決まり着実に点差を広げていく。54-29、東海大の 25 点リードで第 2 ピリオドを終える。

第 3 ピリオド

前半同様、勢いの止まらない東海大は、#7 林を中心に攻め立てる。確率の高いジャンプシュートや、195cmとは思えない素早い動き、またオフェンスリバウンドで繋ぎ、次々に得点していく。九共大は #2 金城、#1 大江の激しいディフェンスからボールを奪い、インサイドプレーヤーとの合わせで徐々に得点を重ねていく。しかし点差は縮まらず、78-43 の東海大リードで第 3 ピリオドを終える。

第 4 ピリオド

勝負の最終ピリオド、九共大は第 3 ピリオドの流れのまま #17 田畑、#15 平良の 3 P が決まる。これをきっかけに九共大はオフェンスのリズムを取り戻し、得点を伸ばしていく。一方、東海大はオールメンバーチェンジをするも変わらず得点を重ねる。九共大は後半に 3 P シュートが立て続けに決まり、追い上げを図るが最後は力及ばず、103-79 で東海大が 2 勝目をあげた。